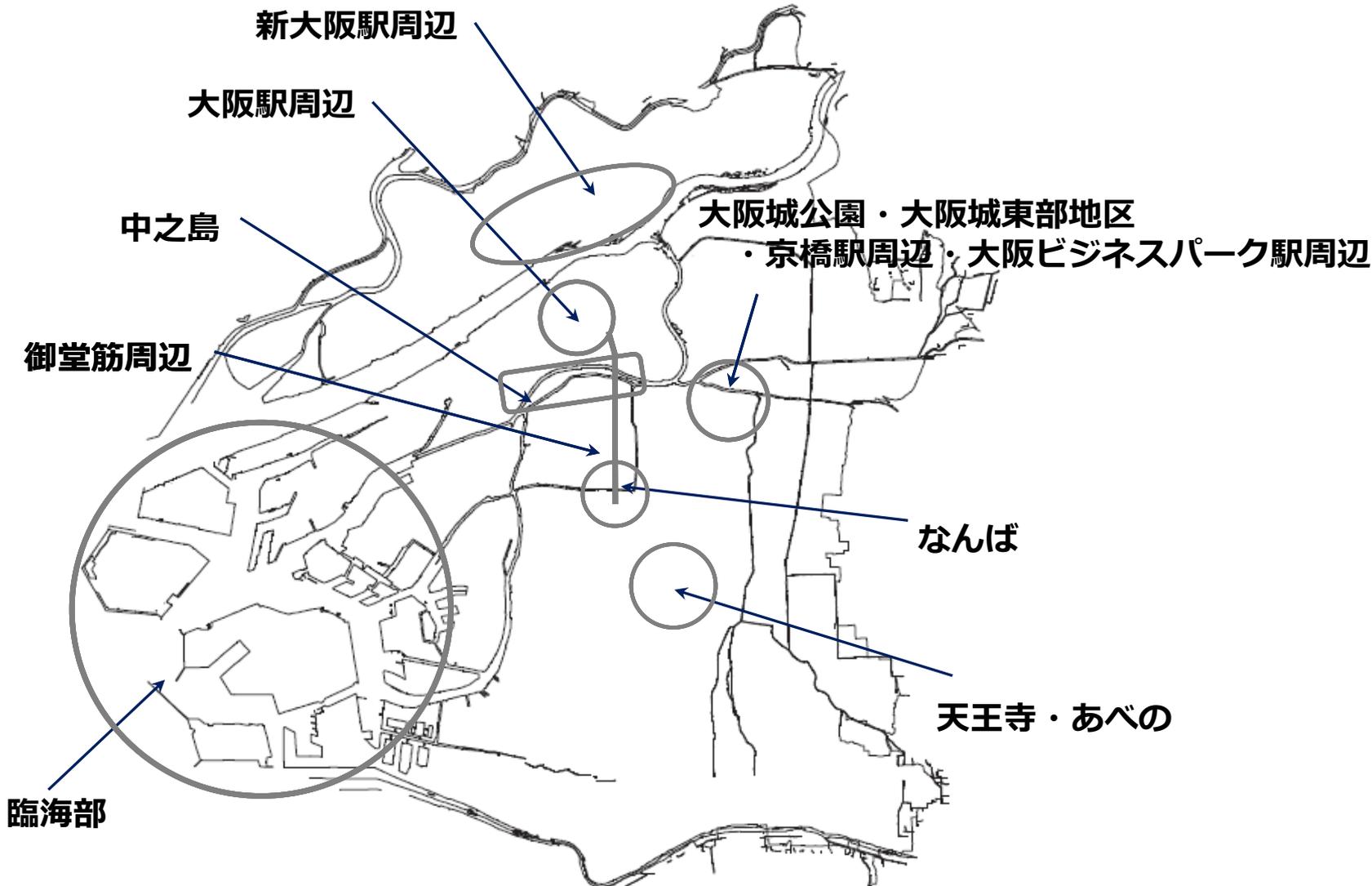


3 エリア別のまちづくりの方向性

位置図

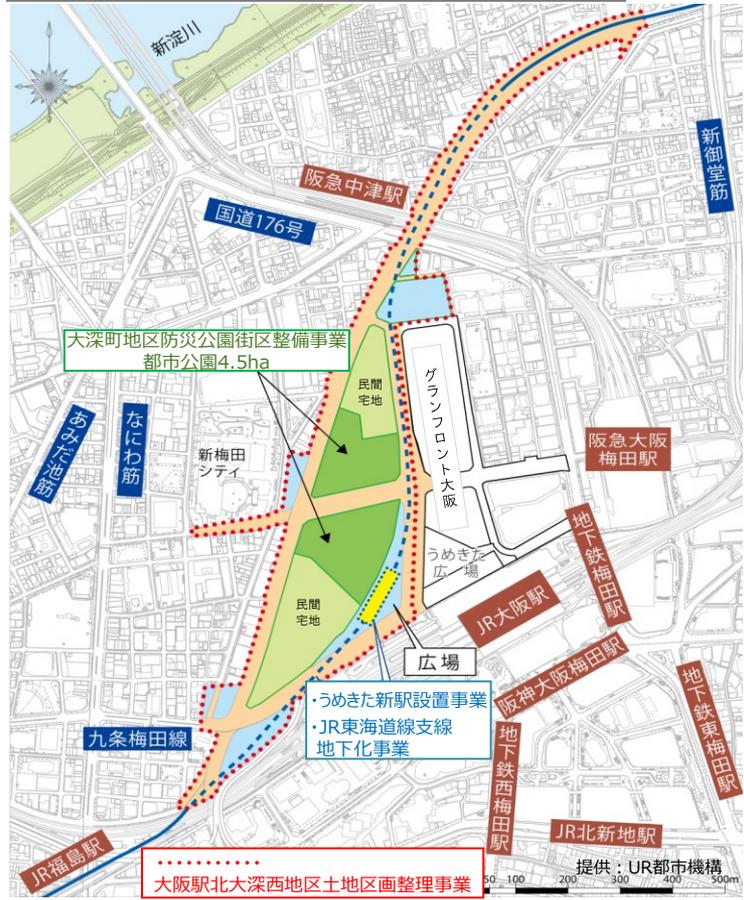


「大阪のまちづくりグランドデザイン」や「都市再生緊急整備地域」に位置付けられているエリアを参考に、市内の各エリアで取り組んでいる施策をとりまとめています。

大阪駅周辺

- ・大阪駅北側に位置するうめきた2期では、「みどりとイノベーションの融合拠点」として、世界から人が集まる、一体的で魅力あるまちづくりを進めます。
- ・民間の創意工夫によるエリアマネジメントを誘導し、大阪駅周辺において一体的に運用することで、まちの付加価値を高め、憩い、過ごすことができる快適な空間の創出をめざします。

うめきた2期 都市基盤施設の整備



うめきた2期 民間開発の概要



- 大阪駅北大深町地区土地区画整理事業
民間開発に向け、土地の区画を整え、良質な宅地を提供するとともに、地区の骨格となる道路、広場等の公共施設を整備します。
- 大深町地区防災公園街区整備事業
地上のまとまったみどりととして、地区中央部に都市公園を整備します。
- うめきた新駅設置事業・JR東海道線支線地下化事業（事業完了）
地上を走行するJR東海道線支線を地下化し、分断された市街地を一体化するとともに、新駅を設置し関西国際空港との所要時間を短縮します。
※R5.2地下化切替、R5.3JR大阪駅（うめきたエリア）の地下ホームとして開業

今後のスケジュール 2027年度：全体まちびらき

- ・うめきた新駅の設置等とともに、「なにわ筋線」の事業を推進し、都心部から関西国際空港や新大阪へのアクセス強化を図ります。
- ・来街者の利便性向上に資する先端的サービスの提供により、スーパーシティ構想の推進に取組みます。

中之島

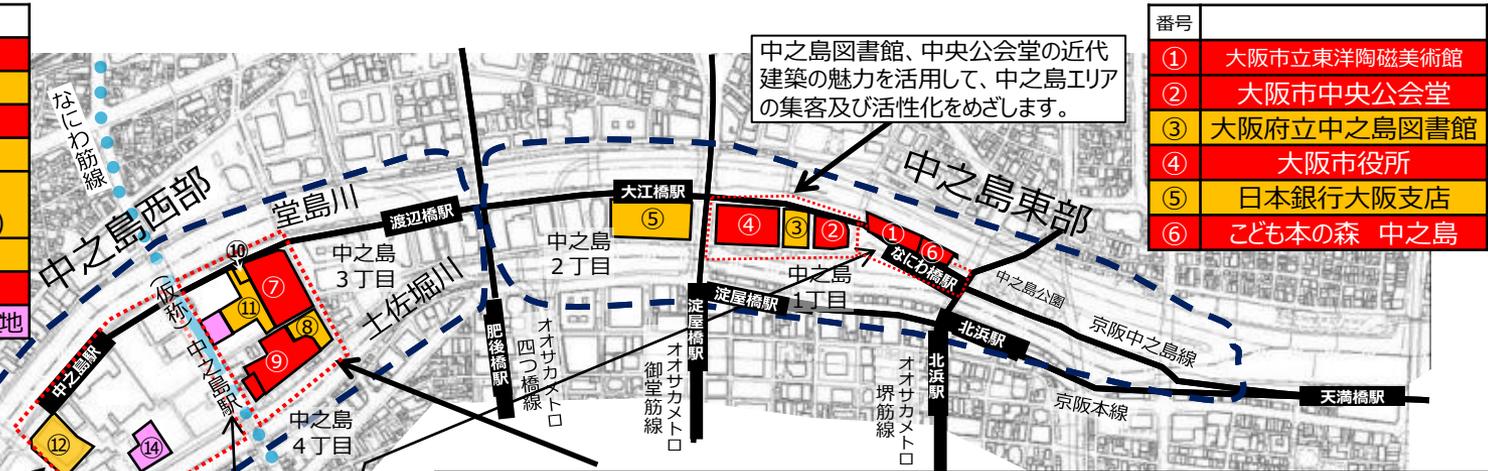
・水の都・大阪のシンボルである中之島において、これまでの業務・文化・MICE機能の集積に加え、なにわ筋線の開業を契機とした未利用地の土地利用転換を促進し、これらが連携・調和し相乗効果を発揮するまちづくりの実現を図ることにより、国際的な業務・文化・学術・交流拠点の形成をめざします。

番号	
⑦	大阪中之島美術館
⑧	国立国際美術館
⑨	大阪市立科学館
⑩	大阪大学中之島センター
⑪	未来医療国際拠点 (Nakanoshima Cross)
⑫	大阪府立国際会議場
⑬	中之島小中一貫校
⑭	中之島小中一貫校第2グラウンド予定地

凡 例	
	整備済み
	整備予定
大阪市	
その他公的施設	

○中之島5丁目
・国際的な拠点形成に資する質の高い民間開発を誘導するまちづくりの検討・調整を進めます。

○中之島通等の歩行者空間整備
・文化施設が集まる中之島東部エリアにおいて2020年7月にこども本の森 中之島が開館し、多種多様な来客が見込まれることから、回遊性を向上させ、快適な歩行者空間のより一層の拡大・拡充を進めるとともに、歩行者交通量の増加に伴う事故リスクに対する交通安全対策として、中之島通(2021年度 工事完了)及び中央公会堂周辺(2022年～2023年度工事)について歩行者空間化を行いました。



番号	
①	大阪市立東洋陶磁美術館
②	大阪市中央公会堂
③	大阪府立中之島図書館
④	大阪市役所
⑤	日本銀行大阪支店
⑥	こども本の森 中之島

○中之島4丁目
・大阪の文化・芸術・学術の中心を担う国際的な拠点へ
・大阪中之島美術館、大阪市立科学館、国立国際美術館の連携により国内有数のミュージアムゾーンをめざします。
・大阪中之島美術館隣接市有地等で、社学共創・産学共創・アート拠点、未来医療国際拠点の形成をめざします。

■社学共創・産学共創・アート拠点

産学官の連携により、大阪大学の知を中之島で交差させ、文化・芸術・学術・技術の新たな交流・発信拠点となる“中之島アゴラ”の形成を推進。大阪大学中之島センターにおいて、既存施設を改修・機能強化し、2023年4月に開館しました。

■未来医療国際拠点 (Nakanoshima Cross)

最先端の未来医療の産業化を推進し、難治性疾患に苦しむ国内外の患者への未来医療の提供をめざす拠点を形成。2024年6月に開業しました。

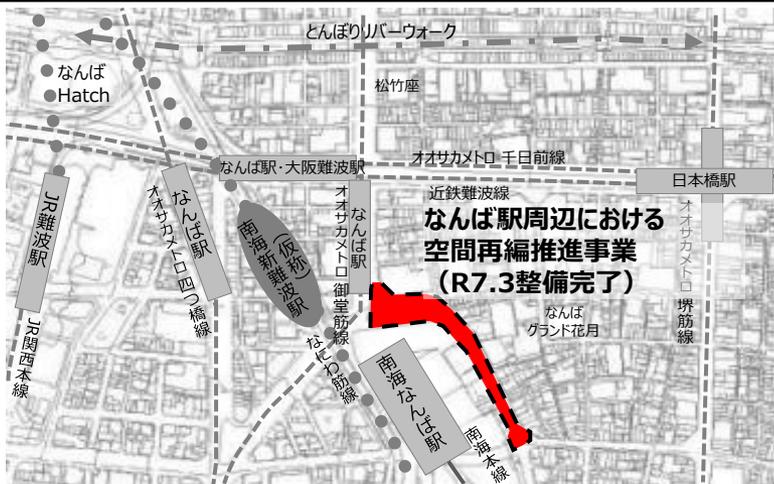
■大阪中之島美術館

所蔵する第一級のコレクションを活用して、歴史的にも文化的にも豊かな蓄積をもつ中之島の魅力向上に貢献します。



なんば

- ・市民、観光客をはじめ、だれもが安心して訪れ、その歴史や風情を楽しむことができる環境づくりを進め、難波周辺を商業・観光エリア「ミナミ」として再生します。
- ・大阪のメインストリートである「御堂筋」の起終点に位置し、再編整備を終えた人中心の空間である「なんば駅前」において、居心地の良さと賑わいの創出を図りながら、新しいまちのシンボル空間を創出します。



位置図

利便増進誘導区域
道路占用許可が柔軟に認められるため、道路の利活用の柔軟性が高められ、民間が主体となったイベントの実施や広告の設置等が可能

時間	駅前広場	なんさん通(北)	なんさん通(南)
1-9	歩行者専用	貨物車通行可能 (歩車分離)	貨物車通行可能 (歩車分離)
9-25		歩行者専用	

○ なんば駅周辺における空間再編推進事業

なんば駅周辺の道路空間を、車中心の空間から人中心の空間へと再編し、エリアマネジメント活動により、世界をひきつける観光拠点として上質で居心地が良く、賑わいのある空間の創出を図ります。



居心地の良さとにぎわいの創出



大阪城公園・大阪城東部地区・京橋駅周辺・大阪ビジネスパーク駅周辺 ①

- 大阪城公園の民間活力導入による新たな魅力創出や難波宮跡公園の歴史的資源の活用により、大阪城公園を中心とした世界的な歴史観光拠点化を一層進めます。
- 京橋駅周辺や大阪ビジネスパーク駅周辺、森之宮周辺（大阪城東部地区）では、東西都市軸のヒガシの拠点として、更なる国際競争力の向上に向け、大阪城公園へ訪れる観光客の地域全体での回遊性の向上によるにぎわいの創出や、各エリアのイノベーション施設などの連携によるビジネス環境の充実等といった観点から3つのエリアを一体的に捉えたまちづくりを推進し、具体的には「大阪城公園周辺地域まちづくり方針」に沿って実行していきます。



○ 大阪城エリア観光拠点化事業

- 民間事業者による大阪城公園パークマネジメント（PMO）事業により、世界的な歴史観光拠点化を進めます。
- 特別史跡大坂城跡の特徴である歴史の重層性を象徴する遺構のひとつとして、豊臣期大坂城の詰ノ丸石垣を露出公開展示し、大阪城の本物の歴史文化を体感できる施設を整備し、2025年4月に開館しました。



大阪城 豊臣石垣館

○ 難波宮跡公園整備

難波宮跡公園は、歴史的資源を活かし、隣接する大阪城公園と一体となった、観光拠点となる歴史公園として整備を推進します。北部ブロックから整備を進め、周辺の回遊性の向上を図ります。

※北部ブロックは、令和7年3月28日に開設し、事業者による管理運営を開始



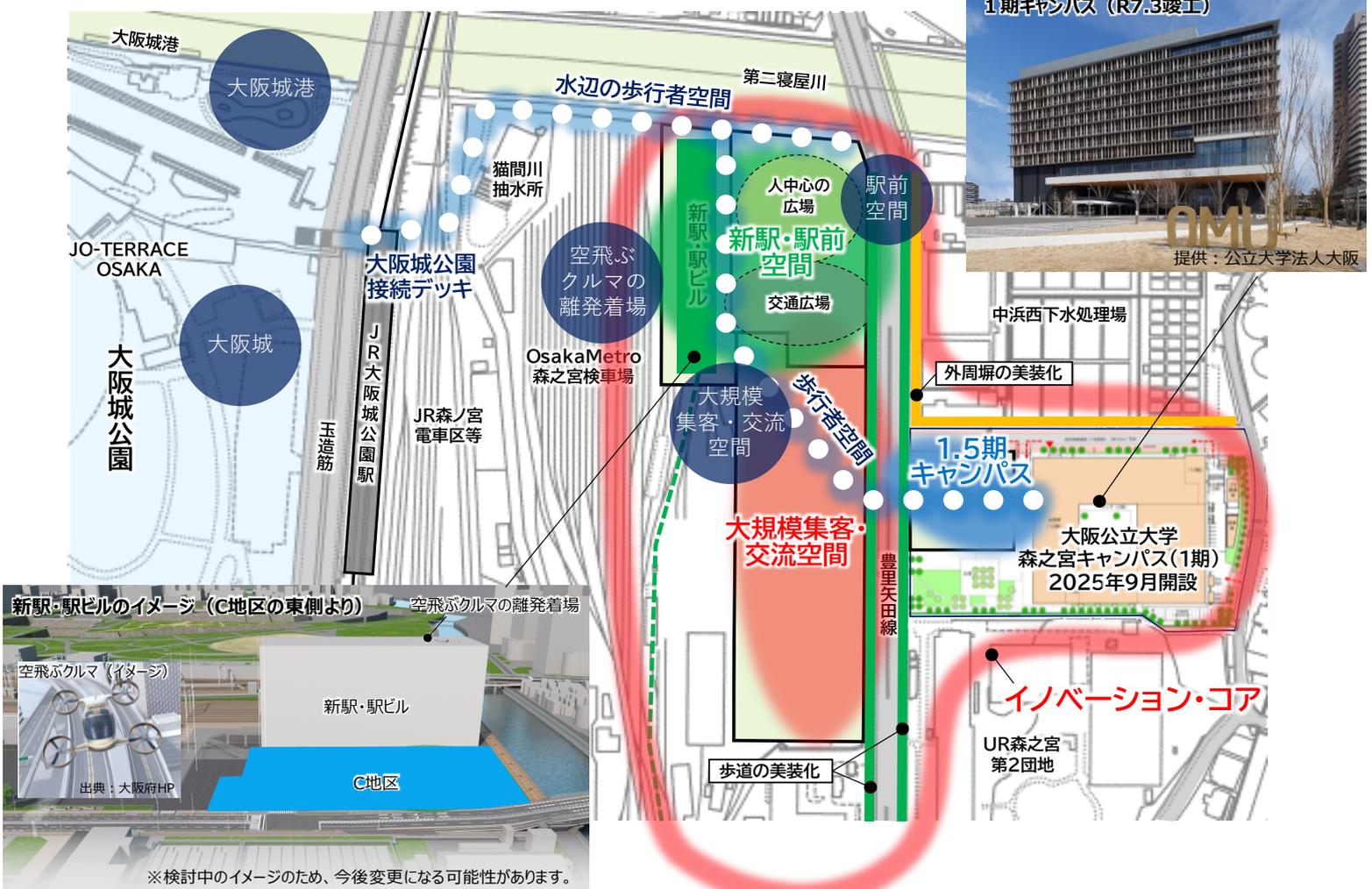
難波宮跡公園（北部ブロック整備後）



大阪城公園・大阪城東部地区・京橋駅周辺・大阪ビジネスパーク駅周辺 ②

・大阪城東部地区では、大阪公立大学を先導役とした、観光集客・健康医療・人材育成・居住機能等の集積により、多世代・多様な人が集い、交流する国際色あるまちづくりを推進します。

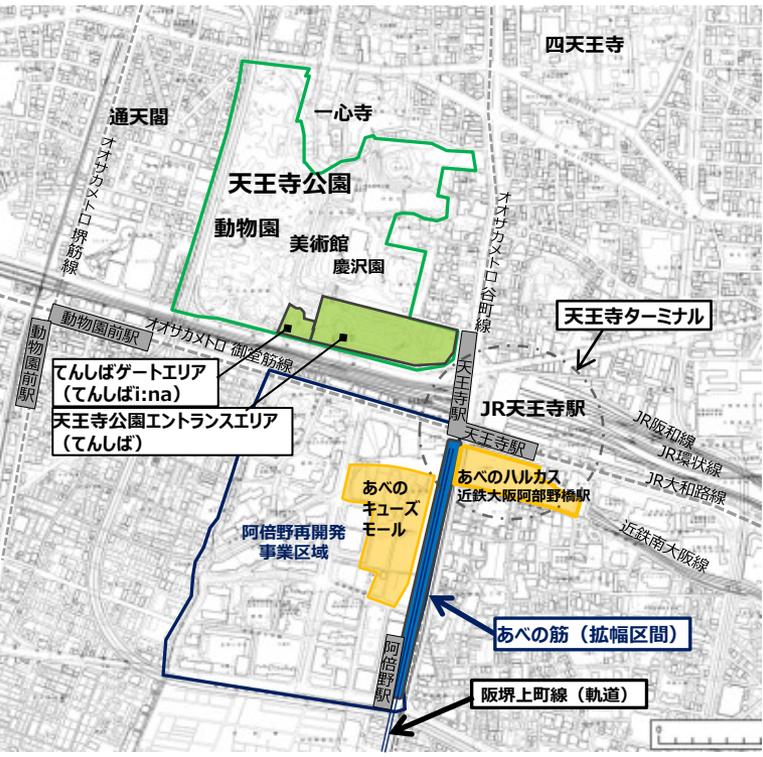
1.5期開発の土地利用・基盤整備の方針



※検討中のイメージのため、今後変更になる可能性があります。

天王寺・あべの

・天王寺・あべの地区は、多様な観光資源を有する大阪の南の玄関口であり、その強みを活かし、地区の核となる天王寺公園・動物園・美術館の魅力向上、並びに回遊性の向上や良好な景観の形成を図ることで、新たな都市魅力を創出する緑あふれる文化観光拠点をめざします。



○ 天王寺公園の魅力向上

- 天王寺公園を核とした天王寺・阿倍野地区の魅力発信・集客促進に取り組みます。
- 天王寺公園
官民連携等により、公園の新たな魅力を創出し、歴史・文化・自然が一体となった公園として、多様な人々が憩い楽しめる、大阪の南のシンボルになることをめざします。
- 天王寺動物園
地方独立行政法人天王寺動物園にかかる中期目標（令和3～7年度）を基に、天王寺動物園の魅力向上に向け、大都市大阪にふさわしい「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」をめざします。
- 大阪市立美術館（2025年3月リニューアルオープン）
地方独立行政法人大阪市博物館機構にかかる中期目標（令和6～10年度）を基に、「都市のコアとしてのミュージアム」の実現に向け、大阪市立美術館の魅力向上を図ります。
- 慶沢園（2025年3月リニューアルオープン）
隣接する大阪市立美術館との一体性の創出、庭園の改修を実施し、文化財庭園としての魅力向上を図ります。

天王寺公園エントランスエリア（てんしば）



天王寺動物園ゲートエリア（てんしば:na）



天王寺動物園（ペンギンパーク&アシカワーフ）



○ あべの筋の魅力づくり

道路拡幅と路面電車の軌道緑化を機に、あべの筋（あべのターミナル周辺）において、地域と協力した道路の適正利用やまちの美化に向けた各種対策に、継続して取り組んでいきます。

芝生軌道（あべのキューズモール前付近）



大阪市立美術館

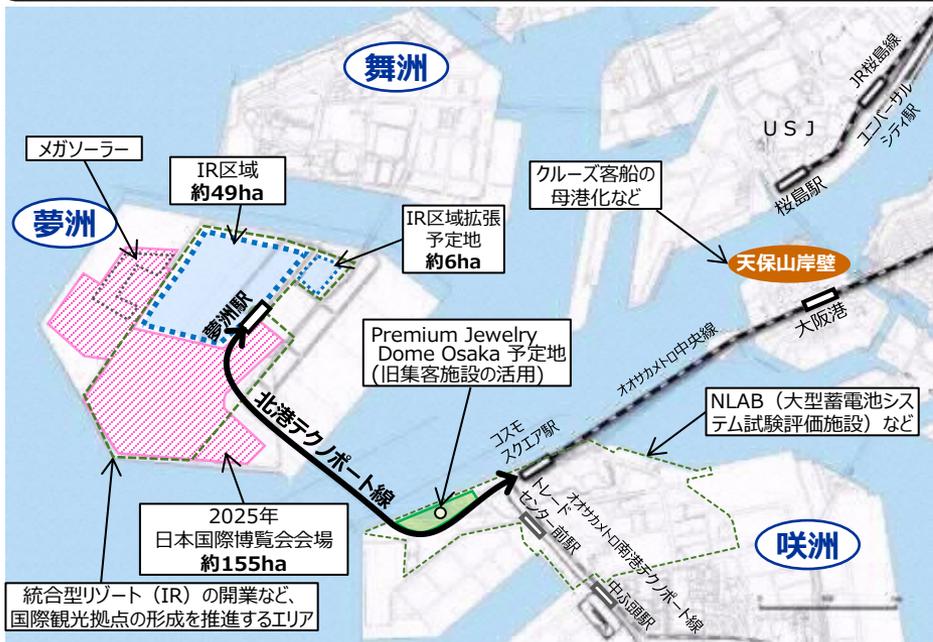


慶沢園



臨海部

・臨海部では、環境・新エネルギーのモデルエリアの実現に向けた取組みを進めるとともに、MICE機能や国際的なエンターテイメント機能等を備えた統合型リゾート（IR）の実現や、クルーズ客船の母港化などにより、世界にアピールできる集客観光拠点をめざします。



○ 新たな国際観光拠点の形成に向けた夢洲まちづくりの取組

夢洲まちづくり構想及び夢洲まちづくり基本方針に基づくまちづくりの実現に向けた取組を推進します。

○ スーパーシティ構想の推進

夢洲にて、先端的サービスの実証、実装を行い、スーパーシティ構想の推進に取組みます。

○ クルーズ客船母港化

クルーズ客船の母港化により国内外の集客力を強化するとともに新たなウォーターフロントのまちづくりに挑戦し、世界にアピールできる集客観光拠点をめざします。

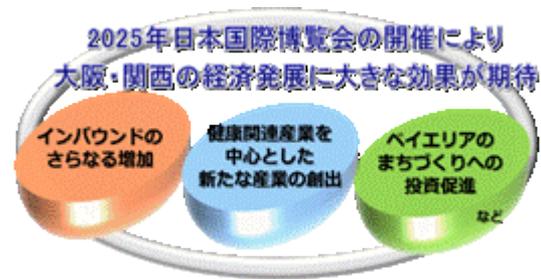
天保山岸壁に入港する客船



2025年日本国際博覧会の開催について

2025年日本国際博覧会の開催を大阪成長の起爆剤とし、大阪・関西の経済発展につながることや大阪の魅力を全世界に発信する絶好の機会とするため、2025年日本国際博覧会協会及び国、大阪府、経済界とも一丸となり、成功に向けて取組みを進めていきます。

- テーマ
いのち輝く未来社会のデザイン
(Designing Future Society for Our Lives)
- 開催期間
2025年4月13日～10月13日
- 会場
夢洲（大阪市此花区）
- 来場者数（想定）
約2,820万人



2025年日本国際博覧会の開催により大阪・関西の経済発展に大きな効果が期待

○ 新たなにぎわいの創出

民間事業者による公共還元型の港湾緑地等の施設整備（港湾法の新制度）や旧集客施設の活用等により、臨海部に新たなにぎわいの創出をめざします。

THE JEWELRY (旧集客施設の活用)



CITY OF OSAKA

大阪府 大阪市